

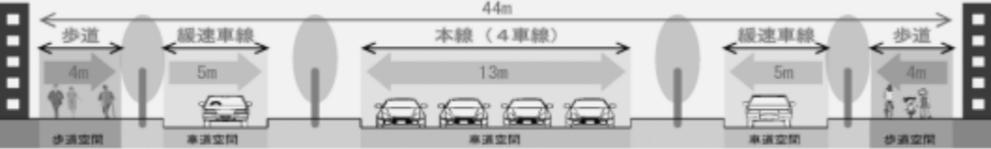
背景

御堂筋は、昭和12年5月に完成した大阪市の中心部を南北に貫くメインストリートであり、イチョウ並木が創りだす美しい景観から、大阪のシンボルストリートとして広く市民に親しまれています。

平成29年には、建設から80年を迎えるところであり、交通量の変化や交通手段の多様化など人々の行動形態や周辺のまちの状況も建設当時とは大きく変わっている中、そうした社会情勢の変化や時代の要請に対応した御堂筋へと再編を進めるべく、検討を進めているところです。



【御堂筋の断面構成（現況）】



これまでの検討経緯

～H25年： 新たなまちづくりのビジョンの検討・問題改善
「御堂筋空間利用検討会」「ランドデザイン・大阪」「大阪都市魅力創造戦略」など

H25年11月： 側道を閉じたときの交通影響等を確認する**社会実験**を実施

H26年10月～11月： 「御堂筋の道路空間再編について（案）」の**パブリックコメント**を実施

御堂筋の道路空間再編の考え方

御堂筋の現状・問題点

- 自動車交通量は約40年前に比べ約4～5割減少
- 自転車交通量は増加傾向であり、約40年前の約6～7倍と大きく増加
- 歩道内混雑度及び自転車事故の発生密度は、市内幹線道路の上位にランク

《方針》 歩行者の安全を第一優先とした空間再編

車重視の道路空間から人重視の道路空間へ

歩行者の安全を第一優先としながら憩いや交流、活力の形成、大阪の顔としてふさわしい道路空間に再編（自転車と歩行者空間の分離）

《課題》 更なる影響・効果検証

- H25年に実施した社会実験は1週間という短い期間であったことから一定期間を通じて安全性、交通影響、利便性などの更なる影響・効果検証が必要。

モデル区間（難波～難波西口交差点間）の設定

- H25年に実施した社会実験で側道閉鎖による交通の影響が少ないことが確認された区間（**難波～難波西口交差点間：約200m**）をモデル区間に設定しました。
- 本格実施における**問題点・課題の抽出、効果検証を実施し**、今後の取組に関する基礎データとします。

モデル区間の交通量・景観などの検証

本格実施に向けた具体的な整備内容

千日前通以北
(淀屋橋～難波)



モデル区間の空間再編イメージ

御堂筋における道路空間再編の基本方針である「**車重視の道路空間から人重視の道路空間へ**」にもとづき、以下のとおりモデル区間の空間再編イメージを設定しました。

道路空間の再配分による新たな空間形成の考え方

人にやさしく歩きやすい空間の形成

- 歩行者通行空間の安全性・快適性向上

憩いや交流、活力形成に資する空間の形成

- 多機能空間の創出

大阪の顔として相応しい空間の形成

- 大阪の顔としての魅力ある空間形成

モデル整備としての検証項目

《歩行者・自転車》

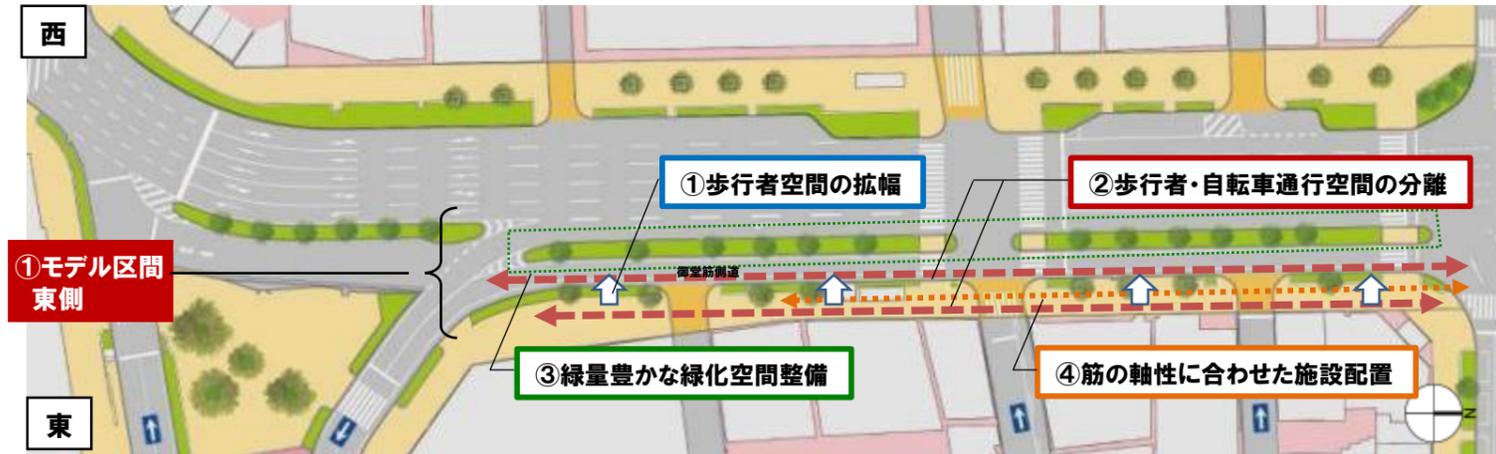
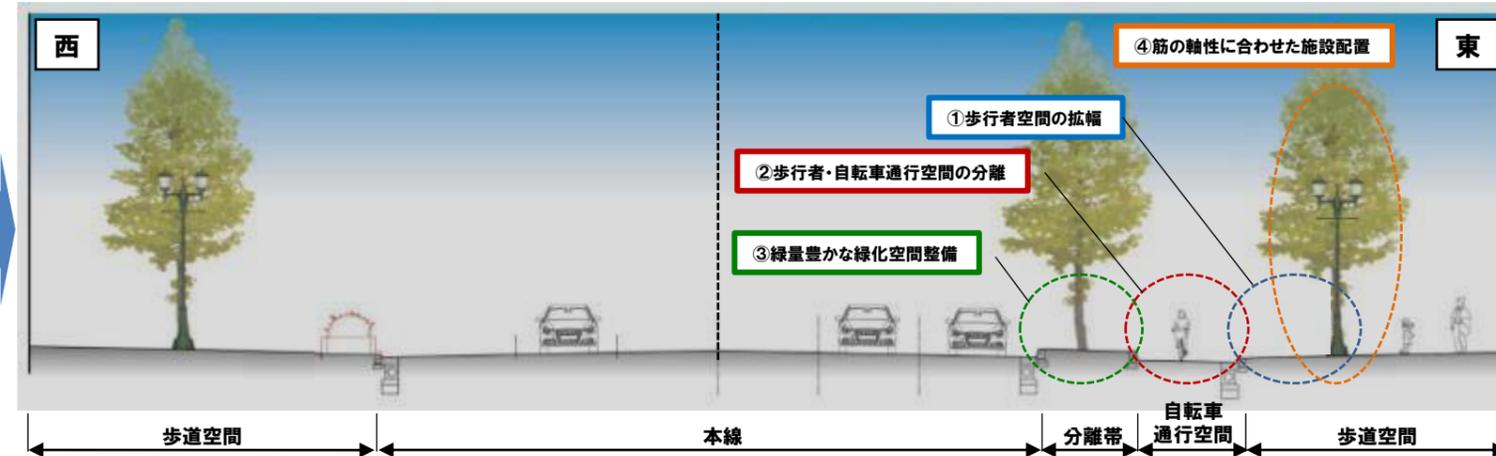
- 双方通行可能な自転車通行空間整備の効果確認（利用率など）
- 人の乗降や荷降ろし等で自転車通行空間を横断する歩行者の状況確認

《停車空間》

- 本線横のみに停車空間がある場合の利用状況の確認
- 荷降ろしトラック等の大型車両の停車運用状況の確認

《その他》

- 沿道景観と整合のとれた道路施設デザインに対する利用者意見の確認
- 側道の歩行者空間化によるにぎわい形成（当該区間における多機能空間のあり方検証）



モデル区間（東側）の整備計画

